

Innovativeユーザ会 定期大会 参加報告

重嶋 まみ (情報管理課)

2008年春、INNOVATIVEユーザ会 (IUG: Innovative Users Group) の第16回年次大会 (16th Annual Meeting) に、総合閲覧課大坪と情報管理課重嶋の2名で参加した。

■INNOVATIVEユーザ会 定期大会とは？

米国のInnovative Interfaces, Inc. (以下、III社) は、世界4,500もの図書館にシステムを提供する世界を代表する図書館システムベンダーである。ユーザ同士が交流を深め、互いの創意工夫を発表し合う場が、年に1度のこのユーザ会である。

日本唯一のユーザである早稲田大学も、より良い「WINE」システム¹⁾の構築を目指し毎年参加しており、ベンダーと直接交渉できる絶好の機会にもなっている。

■会議の概要

日程：2008年4月28日～30日 (3日間)

会場：Washington, D.C. Omni Shoreham Hotel

参加人数：1,600人以上

■内容

★III社との直接交渉

日本語特有の問題を抱える早稲田大学にとって、システムのアップグレード時等に発生するシステム障害は予期が難しく、電話やメールを中心とした米国との交渉はいつも困難を極めた。今回III社との直接交渉により、WINEシステムのテストサー



III社との交渉 (右から2番目が筆者)

★ユーザの多様な取組み

大会期間中絶え間なく開催される数多くのセッションでは、他国の図書館がPerlやJavaScript等を駆使し、自館独自のサービスを多様に展開しよう

1) 「WINE」は早稲田大学オンライン公開目録の愛称

としている姿に感銘を受けた。OPACのカスタマイズやその活用方法など、参考となる事例が多くあり、大きなヒントを得ることができた。

★III社からの情報発信

世界中からユーザが集まる本会ではIII社からの情報提供も積極的に行なわれ、ユーザが抱える悩みをシステムがどう解決してくれるかという情報を提供してくれる。今年始まった「Library Service Live!」は、セッション間の休憩時間という短い時間で開催される少人数制のセミナーで、各ユーザ個別の事情にも積極的に対応していこうとするIII社の姿勢が印象的であった。

■米国議会図書館見学

本会は毎年、米国内各都市を順にめぐる形で開催される。今年は偶然Washington, D.C.での開催だったことから、世界最大の図書館である米国議会図書館 (Library of Congress、以下LC) を見学させていただいた。

写真：Main Reading roomの様子



司書の方々へのインタビューを通し、彼らの専門家としての意識の高さ、LCで働くことへの誇りと情熱を感じ、とても大きな刺激を受けた。早稲田大学図書館でも今年からサービスを開始したオンラインレファレンスについては、ノウハウの一端を教えていただくことができ、その手厚いサービス内容と合理的な運用に驚いた。米国がいかに自国の知への誇りを持っているかということ、LCのMain Reading room でひしひしと感じた。